

令和5年度 長崎県立鶴南特別支援学校 五島分校 学校評価 保護者アンケート

校訓	元気に たゆまず 美しく
学校教育目標	児童生徒が自己の能力や個性を発揮し、明るく元気に生活する中で、夢や希望に向かって努力し、自他を尊重するとともに優しく美しい心を持ち、自己実現と社会参加を図りながら生涯にわたって豊かな生活を送ることができる人間を育成する。

※ 下記の を参考に、該当する欄に○をつけてください。

4:よくあてはまる 3:どちらかといえばあてはまる 2:あまりあてはまらない
1:まったくあてはまらない /:分からない、該当しない

番号	評価内容	評価					全校		小中		高	
		4	3	2	1	/	R5	R4	R5	R4	R5	R4
1学校経営												
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育的ニーズや願いが盛り込んである。	22	16	0	0		3.6	3.7	3.6	3.8	3.5	3.6
2教育活動												
2	教育活動の目標は適切で、保護者と共通理解を図りながら実践している。	20	19	0	0		3.5	3.6	3.6	3.8	3.4	3.5
3	福江小や海陽高校など併設校と連携・協力しながら教育活動を行っている。	23	15	0	0	1	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、その声を学校運営に反映している。	18	17	3	0	1	3.4	3.6	3.5	3.7	3.3	3.4
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	18	21	0	0		3.5	3.7	3.6	3.8	3.3	3.5
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている。	22	17	0	0		3.6	3.6	3.7	3.8	3.3	3.4
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	22	16	1	0		3.5	3.6	3.7	3.7	3.3	3.4
8	「個別の教育支援計画」について保護者と話し合い、学校と家庭が連携しながら課題に取り組んでいる。	27	12	0	0		3.7	3.7	3.8	3.9	3.5	3.5
9	学校行事や授業などで、児童生徒一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	26	12	0	0		3.7	3.7	3.8	3.8	3.6	3.5
10	児童生徒一人一人に対する指導が工夫され、分かりやすい授業を行っている。	24	15	0	0		3.6	3.7	3.8	3.9	3.4	3.5
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが身に付く指導をしている。	24	15	0	0		3.6	3.6	3.7	3.7	3.4	3.6
12	児童生徒の心に寄り添い、児童生徒の立場に立って相談や声掛けをしている。	22	17	0	0		3.6	3.7	3.7	3.8	3.4	3.6
13	児童生徒の命や健康の尊さ、人権などを尊重した取組をしている。	22	17	0	0		3.6	3.7	3.7	3.7	3.4	3.6
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	17	18	0	0	1	3.5	3.6	3.6	3.7	3.3	3.5
15	学校と家庭が必要な情報を共有したり、連携したりしやすい関係性である。	22	14	1	0	3	3.6	3.7	3.8	3.7	3.3	3.7
16	児童生徒の成長に合わせて、将来を見通した進路指導をしている。	23	16	0	0		3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
17	児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している。	19	16	2	0	1	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4	3.5
18	いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	22	14	1	0	2	3.6	3.7	3.8	3.8	3.3	3.6
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	10	5	1	0		3.6	3.6	###	/	3.6	3.6
3教育環境							3.6	3.6	3.7	3.7	3.4	3.5
20	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	21	16	1	0	1	3.5	3.6	3.8	3.7	3.2	3.5
21	児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えてあり、活用している。	20	18	1	0		3.5	3.7	3.7	3.8	3.3	3.5
22	危険箇所などへの配慮が十分なされ、児童生徒の安心・安全に配慮している。	18	17	0	0	3	3.5	3.6	3.7	3.8	3.3	3.5
23	潤いのある環境美化のために、掲示物や花壇などが整備されている。	18	19	1	0	1	3.4	3.5	3.6	3.7	3.2	3.3
4開かれた学校							3.5	3.6	3.7	3.8	3.3	3.5
24	学校行事や学校公開など、地域の人が来校しやすい機会を設けている。	19	16	2	1		3.4	3.6	3.5	3.6	3.3	3.5
25	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	16	17	3	0	2	3.4	3.5	3.5	3.6	3.2	3.5
26	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	18	18	1	0	1	3.5	3.7	3.6	3.7	3.3	3.6
5総合評価							3.5	3.7	3.6	3.7	3.3	3.6
27	子供にとって望ましい学校である。	28	9	2	0		3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	3.8
						3.6	3.7	3.7	3.7	3.4	3.6	

※今後の学校運営に役立てたいと思いますので、「2」や「1」の評価をつけられた場合は、その理由や改善方法などについて、気付きをお書きください。

・コロナ禍で行事ができなかったことなどを引きずっているような気がします。学校と家庭、保護者のつながりが薄いような…。支援学校ならではの良さを出していくと嬉しいです。

令和5年度 長崎県立鶴南特別支援学校 五島分校 学校評価 教職員アンケート

校訓	元気に たゆまず 美しく
学校教育目標	児童生徒が自己の能力や個性を発揮し、明るく元気に生活する中で、夢や希望に向かって努力し、自他を尊重するとともに優しく美しい心を持ち、自己実現と社会参加を図りながら生涯にわたって豊かな生活を送ることができる人間を育成する。

※ 下記の を参考に、該当する欄に○をつけてください。

4:よくあてはまる 3:どちらかといえばあてはまる 2:あまりあてはまらない
1:まったくあてはまらない /:分からない、該当しない

番号	評価内容	評価					全校		小中		高	
		4	3	2	1	/	R5	R4	R5	R4	R5	R4
1 学校経営		4	3	2	1	/	R5	R4	R5	R4	R5	R4
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育的ニーズや願いが盛り込んである。	19	7	0	0		3.7	3.8	3.6	3.9	3.8	3.5
2 教育活動												
2	教育活動の目標は適切で、保護者と共通理解を得て実践している。	15	11	0	0		3.6	3.4	3.5	3.6	3.6	3.3
3	福江小や海陽高校など併設校と連携・協力しながら教育活動を行っている。	21	5	1	0		3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	3.8
4	保護者の希望や願いの声が聞きやすく、その声を学校運営に反映している。	14	13	0	0		3.5	3.5	3.6	3.6	3.4	3.5
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	22	5	0	0		3.8	3.6	3.8	3.8	3.8	3.4
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている。	14	13	0	0		3.5	3.5	3.6	3.7	3.4	3.2
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	12	15	0	0		3.4	3.3	3.6	3.4	3.3	3.1
8	「個別的教育支援計画」について保護者と話し合い、学校と家庭が連携しながら課題に取り組んでいる。	22	4	0	0		3.8	3.6	3.8	3.6	3.9	3.5
9	学校行事や授業などで、児童生徒一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる。	22	5	0	0		3.8	3.7	3.9	3.8	3.7	3.5
10	児童生徒一人一人に対する指導が工夫され、分かりやすい授業を行っている。	14	12	0	0		3.5	3.4	3.6	3.6	3.4	3.3
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが身に付く指導をしている。	18	9	0	0		3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.5
12	児童生徒の心に寄り添い、児童生徒の立場に立って相談や声掛けをしている。	20	7	0	0		3.7	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6
13	児童生徒の命や健康の尊重、人権などを尊重した取組をしている。	22	5	0	0		3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	20	7	0	0		3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6
15	学校と家庭が必要な情報を共有したり、連携したりしやすい関係性である。	18	9	0	0		3.7	3.7	3.6	3.8	3.7	3.6
16	児童生徒の成長に合わせて、将来を見通した進路指導をしている。	18	8	1	0		3.6	3.4	3.5	3.5	3.8	3.4
17	児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している。	12	13	2	0		3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.3
18	いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	17	10	0	0		3.6	3.7	3.7	3.8	3.5	3.6
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	8	4	0	0		3.7	3.3	###	/	3.7	3.3
3 教育環境							3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5
20	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	16	10	1	0		3.6	3.4	3.6	3.6	3.4	3.3
21	児童生徒の学習目標に従った教育環境が整っており、活用している。	17	9	1	0		3.6	3.4	3.6	3.4	3.6	3.5
22	危険箇所などへの配慮が十分なされ、児童生徒の安心・安全に配慮している。	19	7	1	0		3.7	3.7	3.7	3.8	3.6	3.6
23	潤いのある環境美化のために、掲示物や花壇などが整備されている。	13	13	1	0		3.4	3.3	3.6	3.6	3.2	3
4 開かれた学校							3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4
24	学校行事や学校公開など、地域の人が来校しやすい機会を設けている。	18	9	0	0		3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.5
25	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	17	9	1	0		3.6	3.7	3.7	3.7	3.4	3.5
26	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	24	3	0	0		3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7
5 総合評価							3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6
27	子供にとって望ましい学校である。	21	6	0	0		3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6
							3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5

※今後の学校運営に役立てたいと思いますので、「2」や「1」の評価をつけられた場合は、その理由や改善方法などについて、お書きください。

25 PTA活動がなかなか時間が取れないように感じる。今年は、バザーなどあったが、PTAも一緒に取り組める活動や行事が増えると良い。

令和5年度 学校評価の結果を受けての考察と今後の対応について

長崎県立鶴南特別支援学校五島分校

		1 教育活動		2 教育環境		3 開かれた学校		4 総合評価	
		R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
全学部	保護者	3.6	3.6	△3.5	3.6	△3.5	3.7	△3.7	3.8
	教職員	3.6	3.6	↑3.6	3.5	3.8	3.8	↑3.8	3.7
小中学部	保護者	3.7	3.7	△3.7	3.8	△3.5	3.7	△3.7	3.8
	教職員	△3.6	3.7	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8
高等部	保護者	△3.4	3.5	△3.3	3.5	△3.3	3.6	△3.6	3.8
	教職員	↑3.6	3.5	↑3.5	3.4	↑3.7	3.6	↑3.8	3.6

※4段階評価 ↑:向上 △:下降

1 教育活動について

【全学部】

<保護者>

「教育活動」の領域の平均は3.6Pと昨年と同値の評価であった。毎年高い水準で推移しており、高評価を得ていることが分かる。

項目別で見ると、全18項目中17項目が3.5ポイント以上の高い評価を得ているが、昨年度に比べると評価が上がった項目は無く、全18項目中11項目で0.1~0.2ポイント下がっている。しかし、前述したように、毎年高い評価で推移している点については評価できる。

昨年度と比べて特に評価が下がった項目は「4 保護者の希望や願いの声が届きやすく、その声を学校運営に反映している」(3.6⇒3.4)で、「教育活動」の領域では一番評価が低かった。3名の保護者が評価「2」を付けているが理由が明記されておらず、保護者の真意は明確には分からないが、「保護者の希望や願いの声が十分に届いていない」と感じられている保護者が3名も居るという事実を真摯に受け止め、対応していかねばならないと思う。但し、学校としても「できること」と「できないこと」があることは事実であり、その点に関しては納得してもらえるように説明責任を果たす必要がある。

<教師>

「教育活動」の領域の平均は3.6Pと昨年と同値の評価であり、高い水準を保っている。

項目別で見ると、保護者同様全18項目中17項目が3.5以上の高い評価を得ているが、保護者の結果とは対照的なのが、昨年度の評価を下回ったのが1項目のみ(3.7⇒3.6)という点であり、全18項目中17項目で、昨年度より評価が高くなっている(0.1~0.4ポイント)。昨年度までは評価が高い項目と低い項目の二極化が目立つ傾向にあったが、今年度の評価は平均的に高くなっていることが分かる。中でも「7 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる(3.3⇒3.4)」「10 児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている(3.4⇒3.5)」は、全体から見るとやや評価が低いが、この2項目は「教育活動」の領域の中でも特に大事な評価項目なので、直近三年間で少しずつ向上している点については評価をしたい。

今後も保護者と連携をとりながら、児童生徒が主体的に活動し、生き生きと学校生活を送れるように学習

活動や学校行事に取り組んでいきたい。

【小中学部】

<保護者>

「教育活動」の領域の平均は3.7ポイントと昨年と同値の評価であり、高い水準を保っている。

項目別で見ると、18項目全てが3.5以上と高い評価であるが、昨年比では「15 学校と家庭が必要な情報を共有したり、連携したりしやすい関係性である」(3.7⇒3.8)のみが向上し、18項目中9項目は0.1～0.2ポイント下がっている。ただし、毎年高い評価をいただいているので、保護者の信頼を裏切らないように、引き続き真摯に取り組んでいく姿勢を大事にしてほしい。

<教師>

「教育活動」の領域の平均は3.6ポイントと、昨年比0.1ポイント上がっており、十分に高い水準を保っている。

項目別で見ると、全17項目中3項目が昨年比より向上しており、特に「8 個別の教育支援計画」について保護者と話し合い、学校と家庭が連携しながら課題に取り組んでいる」(3.6⇒3.8)、「9 学校行事や授業などで、児童生徒一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる」(3.8⇒3.9)は高い評価を得ている。また、昨年度を含め毎年評価が低い「7 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる」(3.4⇒3.6)が0.2ポイント向上している点は評価に値する。逆に、全17項目中6項目は昨年比0.1～0.2下がっており、中でも「15 学校と家庭が必要な情報を共有したり、連携したりしやすい関係性である」(3.8⇒3.6)は唯一0.2ポイント下がっており、「17 児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している」(3.4⇒3.3)は全17項目中最も低い評価項目である。この評価項目は進路に関する項目でもあり、小中学部職員の意識改革や専門性の向上などが、評価を上げるためには必要なのではないだろうか。

【高等部】

<保護者>

「教育活動」の領域の平均は3.4ポイントと、昨年比0.1ポイント下がっている。

項目別で見ると、全18項目中「9 学校行事や授業などで、児童生徒一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる」の1項目だけが昨年比0.1ポイント向上しているが(3.5⇒3.6)、全18項目中13項目が0.1～0.4ポイントの幅で下がっている。特に「15 学校と家庭が必要な情報を共有したり、連携したりしやすい関係性である」は昨年比0.4ポイント(3.7⇒3.3)下がっており、これは高等部職員の同項目の評価3.7と比べると相反する評価になっており、「情報共有している、連携できている」と思っている教師と、そうは思っていない保護者との考えや捉え方に大きな隔たりが生じていることが明白である。この項目には評価点「2」を付けた保護者も1名いるので、今後は保護者の声を聴きながら具体的な対応を考えていきたい。

<教師>

「教育活動」の領域の平均は3.6ポイントと、昨年比0.1ポイント上がっており、十分に高い水準を保っている。

項目別で見ると、全18項目中14項目が昨年比0.1～0.4ポイント向上しており、特に「5 児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている(3.4⇒3.8)」「8 個別の教育支援計画について保護者と話し合い、学校と家庭が連携しながら課題に取り組んでいる(3.5⇒3.9)」「16 児童生徒の成

長に合わせ、将来を見通した進路指導をしている(3.4⇒3.8)」「19 現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている(3.3⇒3.7)」の4項目は0.4ポイント向上している。また、直近三年間で評価点が最も低い「6 教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている(3.2⇒3.4)」「7 教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる(3.1⇒3.3)」の2項目については、他の評価項目と比べて評価点は低いながらも、共に0.2ポイント向上していることについては評価に値する。

2 教育環境について

【全学部】

<保護者>

「教育環境」の領域の平均は3.5ポイントと、昨年比0.1ポイント下がっている。

項目別で見ると、全4項目中3項目が3.5ポイント、1項目が3.4ポイントと他の評価項目と比べると平均的評価である。全4項目とも昨年比より0.1~0.2ポイント下がっているが、評価としては高い評価を得ていると思う。「21 児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えられてあり、活用している(3.7⇒3.5)」が0.2ポイント下がっている点については、具体的な原因や理由を探していきたい。

<教師>

「教育環境」の領域の平均は3.6ポイントと、昨年比0.1ポイント向上している。

項目別で見ると、全4項目中3項目が3.6~3.7ポイントと非常に高く、他1項目も3.4ポイントで、全4項目中3項目が昨年比より向上している。特に「22 危険個所などへの配慮が十分なされ、児童生徒の安心・安全に配慮している」については昨年度同様3.7ポイントと高評価であり、毎月の安全点検やヒアリの共有などが高評価につながっているのではないだろうか。

【小中学部】

<保護者>

「教育環境」の領域の平均は3.7ポイントで、昨年比0.1ポイント下がってはいるものの、全4項目で非常に高評価を得ている。

項目別で見ると、全4項目中3項目は前年比0.1~0.2ポイント下がっているが、「20 校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている(3.7⇒3.8)」は前年比0.1ポイント向上するなど更に高評価だった。また、全学部の平均同様、小中学部でも「21 児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えられてあり、活用している(3.8⇒3.6)」については高評価ながら前年比0.2ポイント下がっている。

<教師>

「教育環境」の領域の平均は3.6ポイントで、昨年同様の評価点だった。

項目別で見ると、全4項目とも3.6以上の高評価だった。特に「21 児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えられてあり、活用している(3.4⇒3.6)」は前年比0.2ポイント向上している。しかし、保護者の同項目は0.2ポイント下がっていることから、保護者と教師の評価の捉えが相反している点について擦り合わせをする必要がある。

【高等部】

<保護者>

「教育環境」の領域の平均は3.3ポイントで、前年比0.2ポイント下がっており、項目別でも全4項目とも3.2~3.3の評価で、昨年比0.1~0.3ポイント下がっている。特に「20 校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている(3.5→3.2)」については0.3ポイント下がっている。他の評価内容と比べると4項目とも低い結果が出ているが、この領域(教育環境)は毎回評価が低い。評価としては真摯に受け止めるが、生徒と教師が一緒になって担当区域の清掃やごみ集めを一生懸命に行ったり、教室や特別教室も清潔に保ったりしていると思う。恐らく、後段の「清潔な学校づくり」ではなく前段の「校舎内外の施設が整備され」の部分で評価をされているように思う。施設設備は与えられたもので対応するしかなく、古い施設設備や教室の狭さなどどうしようもない側面をカバーするために、清潔に大事に使っていることなどが保護者には十分に届いていないことが残念である。

<教師>

「教育環境」の領域の平均は3.5ポイントで、前年比0.1ポイント向上している。

項目別で見ると、全4項目で前年比0.1~0.2ポイント向上している。特に昨年度、全評価内容のうち最も評価点が低かった「23 潤いのある環境美化のために、掲示物や花壇などが整備されている(3.0ポイント)」が3.2ポイントに向上したことは評価できる。

3 開かれた学校について

【全学部】

<保護者>

「開かれた学校」の領域の平均は3.5ポイントで、前年比0.2ポイント下がっているが、高い水準で評価されている。

項目別で見ると、全3項目中3項目とも0.1~0.2ポイント下がっており、特に「24 学校行事や学校公開など、地域の人が来校しやすい機会を設けている」「26 学校の情報をホームページや各種便りで伝えている」の2項目が前年比0.2ポイント下がっている。後に示すが、各部ごとの評価平均でも前年比0.2~0.3ポイント下がっている。また、「25 PTA活動に参加しやすいように配慮している」については、「PTA活動がなかなか時間が取れないように感じる。今年はバザーなどあったが、PTAも一緒に取り組める活動や行事が増えると良い」という保護者意見があった。

<教師>

「開かれた学校」の領域の平均は3.8ポイントと非常に高く、前年と同様の評価点であった。

項目別で見ると、全3項目とも3.6ポイント以上という高評価で、特に「24 学校行事や学校公開など、地域の人が来校しやすい機会を設けている(3.6→3.7)」「26 学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている」は昨年同様3.9ポイントと高評価であった。保護者の評価とは対照的に、教師側は高評価を付けており、その平均は最大0.4ポイント差がある。24についてはコロナ禍がある程度終息し、学校公開や学校行事への参加者の門戸を広げたことが高評価につながっていると考えられる。また、26については、特に小学部においては学級だよりの発行頻度が高く、また、ホームページ更新も熱心に取り組んでいる。教師側としては、その実感が評価に表れており、客観的に見ても良く取り組んでいる。また、「25 PTA活動に参加しやすいように配慮している」について「PTA活動がなかなか時間が取れないように感じる。今年はバザーなどあったが、PTAも一緒に取り組める活動や行事が増えると良い(原文のまま)」という意見があった。具体例は書いてなかつ

たが、PTA会長を中心として保護者とも連携を図りながら、次年度以降の検討事項としたい。

【小中学部】

<保護者>

「開かれた学校」の領域の平均は3.5ポイントと高い評価であるが、前年比0.2ポイント下がっている。項目別に見ても、全3項目のうち3項目とも0.1ポイント下がっている。しかし、前述したように、前年比より評価点は下がってはいるが、全項目とも評価点が3.5ポイント以上と非常に高い評価を受けている。これは、小学部においては学級だよりの発行頻度が高く、また、ホームページ更新も熱心に取り組んでいることが評価されたと推察する。

<教師>

「開かれた学校」の領域の平均は3.8ポイントと非常に高い評価であり、昨年度と同値である。項目別にみると、3項目とも前年度と同値で、特に「26 学校の情報をホームページや各種便りで伝えている」は3.9ポイントという高評価である。これは前述したとおり、学級通信やホームページなどをとおして学校の情報を発信しているという、教師側の自負が感じられる評価だと思われ、客観的に見ても大変良く取り組んでいる。

【高等部】

<保護者>

「開かれた学校」の領域の平均は3.3ポイントであり、前年比0.2ポイント下がっている。項目別に見ても全3項目とも前年比0.2~0.3ポイント下がっている。この領域では「コロナ禍で行事ができなかったことなどを引きずっているような気がします。学校と家庭、保護者につながりが薄いような・・・。支援学校ならではの良さを生かしていきとうれしいです。(原文のまま)」という保護者意見があった。また、全3項目で、6人の保護者が評価点「2」を付けていることについても真摯に受け止める必要がある。また、「24 学校行事や学校公開など、地域の方が来校しやすい機会を設けている」については評価点「1」を付けた保護者もいた。コロナ禍以前の学校の様子と比べての意見だと推察するが、デメリットだけではなく、コロナ禍をとおして行事や会議の在り方について見直すきっかけになったというメリットの部分もあるので、改めて保護者の真意を確かめながら、PTA活動の在り方についても共通理解を図っていくことが必要だと思う。

<教師>

「開かれた学校」の領域の平均は3.7ポイントであり、前年比より0.1ポイント向上している。項目別に見ると全3項目中、2項目が0.1ポイント向上し、1項目が0.1ポイント下がっているが、小中学部同様「26 学校の情報をホームページや各種便りで伝えている」は3.8ポイントと非常に高い評価となっている。しかし、保護者の評価点が3.3ポイントで、教師の評価点3.8ポイントと0.5ポイントの差がある。この評価の隔たりについては具体的な理由が書かれてなかったため、あくまで推察ではあるが、学級だよりの発行回数や連絡帳のやりとり、ホームページの更新回

数の少なさなど、情報発信が保護者にとっては十分満足いくものではなかったのか。また、別の理由があるのかを、保護者への聞き取りを基に対応を考え直す必要がある。

4 総合評価

<保護者>

総合評価については、全体評価が3.7ポイントと前年比0.1ポイント下がっているものの、非常に高い評価を得ている。学部別に見ると、小中学部は3.7ポイントで前年比0.1ポイント下がっているが高評価を得ている。また、高等部は3.6ポイントと前年比0.2ポイント下がっているが、こちらも高評価を得ている。総合評価の評価内容は「27 子供にとって望ましい学校である」という学校としては最も重要な評価項目の一つであるため、昨年度に続き総合評価で高評価を得ることができたのは大変喜ばしいことである。

<教師>

総合評価については、全体評価が3.7ポイントと前年比0.1ポイント向上している。学部別に見ても、小中学部は前年同様3.8ポイント、高等部は0.2ポイント向上して3.7ポイントと、どちらも高評価である。自分たちの指導や学校の在り方を客観的に見て「子供たちにとって望ましい学校である」と評価した結果であると思う。

5 全体総括

昨年度と比較すると、保護者評価はほぼ全項目で下がり、逆に教師の評価は向上しているという評価の「隔たり」が目立った。自己評価と他者からの評価には多かれ少なかれギャップが生じるものではあるが、その差が大きい場合には改めて客観的かつ冷静に評価内容を見直す必要がある。特に前述した【4 開かれた学校】の「26 学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている」においては小中学部で0.3ポイント、高等部では0.5ポイントの「隔たり」があった。説明責任でその差が埋まるのか、根本的に対応を考え直す必要があるのか、改めて保護者に確認を取りながら、検証していきたいと思う。

学校運営は所属する職員一人一人が関わっているものであり、「～できていない」「～してほしい」という一方的な要求ではなく、「どうしたら～できるのか」「自分なら～した方がよいと思う」という建設的な意見や考え方をもつこと、そして職員一人一人が鶴南特別支援学校五島分校の一員であり、学校運営に参画しているという意識をもつことが大事である。今後も、職員間や保護者との連携を大切にしながら日々の指導・支援に努め、保護者の期待に応えられるような、より良い学校づくりに取り組んでいきたい。